

平成 29 年 4 月 1 日

校長 船木 亮作

## 平成 29 年度 港区立港南小学校経営計画 —この地域を愛し、保護者・地域とともに進める港南小学校の教育—

### 1 教育理念（国際社会で活躍する子供の育成）

現在の日本はグローバル化し、情報化が急速に進展し、国際競争も加速化しています。また、異なる文化との共存や持続可能な発展に向けて国際協力の必要性も像出しており、国際社会で活躍する人材の育成は急務であります。今、小学校から高等学校へ続く学校教育では、グローバルな視点を持ち国際社会の一員として活躍する人材の育成が求められています。

一方、自分への自信の欠如や将来への不安などから自己肯定感や自尊感情をもつことができず、内に閉じこもったり攻撃的になったりする子供たちが増加しています。子供たちの情緒を安定させ、安心して学校生活を送り自己肯定感をもたせることも学校の重要な責務となっています。このことは、将来国際社会で生き抜いていく子供たちにとって大変重要な要素です。子供たちには、変化の激しいこれからの社会を生き抜くためには、豊かな人間性、確かな学力、健康な体の徳・知・体をバランスよく育てることが大切です。平成 27 年 8 月に中央教育審議会教育課程企画特別部会において次の 3 つに論点整理がなされました。そこでは、「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」をそれぞれ単独で捉えるのではなく、統合的な捉えることが大切であると論じています。

(1) 「何を理解しているか、何ができるか（知識・技能）」

(2) 「理解していること・できることをどう使うか（思考力・判断力等）」

(3) 「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）」

この三つの柱で資質・能力を統合的に捉えることが必要となってきます

私たちは、子供たちの将来を見つめ、一人一人は自己実現を図ることができる素地を育成します。

### 2 本校の教育目標

◎よく考えて 学習する子

◎すなおで 心豊かな子

○すすんではたらき協力する子

○健康で がんばりぬく子

学校の教育目標は、港南小学校に通う子供たちを小学校 6 年間にどのような子供に育てていこうとするかを目標として示したものです。

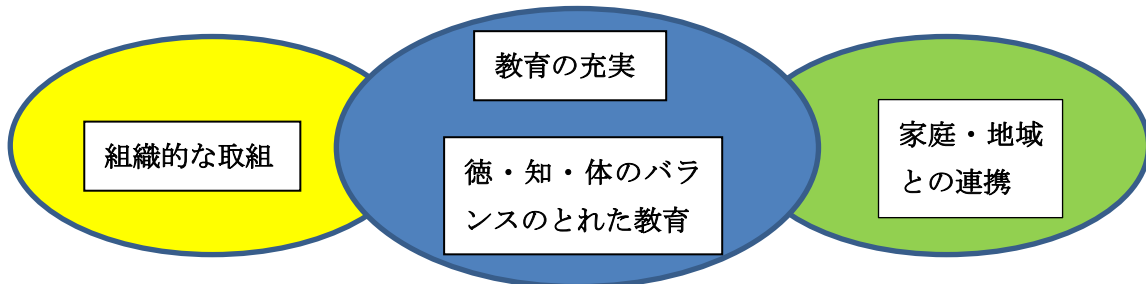
港南小学校が掲げる教育目標は、上記の 4 つとなっているが、今年度は研究にもからめて「よく考えて 学習する子」と「すなおで 心豊かな子」を重点目標として教育を進めていきます。この 2 つを重点目標としたわけは、港南小学校子供たちの実態からこれからの社会を生き抜くための学力と国際社会で活躍するためのコミュニケーション能力を高める必要があるためです。

港南小学校では、平成 26 年度から 4 年間「港区教育委員会研究奨励校」の指定を受け、自己肯定感を高めるために、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図ることを行ってきています。

### 3 学校経営方針の柱

学校が充実した、しかも安定感のある教育を推進していくためには、校長の学校経営方針のもと、組織が一丸となって質の高い教育を推進していかなければなりません。また、学校の教育目標を達成するためには、学校だけでなく、家庭、地域の連携や協働が必要となってきます。

そこで、本年度の学校経営方針は、下記のような3つの柱を立てました。



#### (1) 教育の充実 : 徳・知・体のバランスのとれた教育

- ① 学習指導要領等に基づき、地域や学校の実態、児童の心身の発達段階や特性に応じた教育を行う。
- ② 港区教育ビジョンを基に、未来を創造する児童を育成する。
- ③ 生き抜く力を育むことを目指し、基礎学力の定着・向上、家庭や地域と協働した基本的成果湯習慣や社会性の育成を行う。
- ④ 港区教育委員会の研究奨励校として、研究を通して新しい教育観の基、児童の自己肯定感や自尊感情を高める教育を推進し、国際社会で活躍する素地を育成する。
- ⑤ 学習環境を生かし、教育活動全体を通じた健康に関する指導の充実を図る。

#### (2) 組織的な取組 : チーム港南

- ① 法令を遵守し、公平・公正で服務に厳正な職員。
- ② 組織人としての責任感、協調性を有し、教育に対する熱意と使命感をもった職員。
- ③ 一人で抱え込まず学年全体もしくは学校全体の子供たちという意識で指導する職員。
- ④ 心身共に健康で、豊かな人間性と思いやりを身に付けた職員。
- ⑤ より高い志をもち、目標にチャレンジするとともに改善・工夫をする組織。
- ⑥ この地域と学校を愛し、様々な形で保護者、地域と連携・協働する組織。

#### (3) 保護者・地域との連携・協働 : 感謝と貢献

- ① 学校が地域から信頼され、多くの人々から愛される学校づくり。
- ② 家庭や地域の教育力を活用するとともに、地域の行事にも積極的に参加するなど連携・協働する学校づくり。
- ③ 保護者や地域の期待に応え、「わが地域の学校」「わが地域の誇り」と言ってもらえるような学校づくり。

## 4 平成29年度港南小学校で培う力

子供たちが将来、国際社会でたくましく行きぬく素養と豊かな情操を育むために、以下の4つの視点で取り組んでいきます。

- ① 倫理観・社会性の育成（徳）
  - ・社会のルールの一貫性を理解し、遵守する態度
  - ・自らを律する態度
  - ・他者を理解し、尊重する態度
  - ・生命を尊重する態度
- ② 豊かな情操（徳）
  - ・豊かな表現力
  - ・感動する心
  - ・崇高なものを受容し求める心
  - ・自己肯定感や自尊感情の高まり
  - ・感情や情緒の安定
- ③ 確かな学力（知）
  - ・子供が学びの楽しさや必要性を理解し、生涯に渡って学び続けようとする態度
  - ・基礎学力が充実し、個に応じた一段高い学力
  - ・課題を発見し、考え、解決する問題解決の力
  - ・主体的・対話的学習を積み重ね、コミュニケーション力を高める
- ④ 健康づくりの実践力（体）
  - ・健康の重要性を理解し、進んで健康づくりに取り組む態度
  - ・運動の楽しさを体感し、日常生活に運動を取り入れる姿勢
  - ・食に対する正しい知識と望ましい食習慣
  - ・専門家による保健指導の実施

## 5 経営の重点

上述の資質能力を育成するための手立てとして 項目に整理しました。中期的目標は、今後3年間を目途に取り組むもので、抽象的な表現が含まれています。今年度の目標は、今年度重点として取り組む具体的な内容です。

### （1）倫理観・社会的規範性の育成

将来、国際社会で信頼と尊敬を得るためには、倫理観や規範意識を身に付けることや他者、他国を尊重し我が国と郷土を愛する心情をもつことはきわめて重要であります。そこで、公共の精神を尊び、ルールを遵守するとともに他者を尊重し、日本人としての誇りを自覚した人材の育成を目指します。

今年度の目標	中期的目標
① あいさつを生活の基盤として、あいさつ運動の仕方を改善する。	○港南スタンダードを徹底させ、一般社会でのルールを身に付けさせる。
② 港南スタンダードを生活目標に定め、重点指導する。	○地域を愛し、地域へ貢献する態度を育成する教育活動を重視する。

③ 児童や保護者に地域行事を積極的に紹介し、参加を促す。(ホームページの活用)	○次期学習指導要領での特別な教科道徳において、特に生面尊重について重点をおいて指導する。
④ 児童アンケートの完全実施と事後対応を確実にを行う。	○国際科やオリンピック・パラリンピック教育を中心に他者や他国を尊重する態度やコミュニケーション力の育成を行う。
⑤ いじめ不登校等防止対策委員会で専門家をメンバーに入れ、組織的に対応していく。	○いじめや不登校に対する取組みを確実にを行い、根絶を目指す。
⑥ 担任とカウンセラーとの連携を強化する。	

### (2) 音楽活動や図工の創作活動の充実による情操の育成

美しいものや優れたものに接して感動する情感豊かな心を育てるために、以下の内容について実施していく。豊かな情操を育てることは一人一人の豊かな心の育成につながるものです。豊かな情操は生きる糧であり潤滑油でもあります。

今年度の目標	中期的目標
① 鼓笛隊を中心とした活動を組織的に実施する。	○児童数の増加に伴い、金管楽器の台数を増やし、多くの児童が楽器に触れる機会を多くする。また、地域の行事等にも積極的に参加する。
② ふれあいコンサートの回数を増やす。	○音楽活動に伴う特別活動を充実させる。
③ 1年生から音楽専科を入れる。	○図工の作品の常設展示を計画的に行う。
④ 3年生から図工専科を入れる。	○低学年からの音楽専科を維持する。
⑤ 図工作品の常設展示を行う。	
⑥ 音楽朝会の内容の充実を図る。	

### (3) 社会人基礎力の育成

社会人基礎力は、組織や地域社会で多様な人々とともに活動を行う上で必要な基礎的能力である。それは、コミュニケーション力、実行力、問題解決力、積極性などの力です。これらの力の基となるのが基礎学力や意欲となります。本校では、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を行い、将来にわたって学び続ける児童の育成を目指します。

今年度の目標	中期的目標
① 研究発表に向け、授業改善を図るとともに児童が一人一人が自分の考えをもてるようにする。	○基礎的・基本的内容の定着が不十分な児童に対して個に応じた指導を徹底する。
② 放課後や夏季休業中に補習を実施する。	○児童が学習の成果を実感できるようにし、深い学びになるような指導を実践する。
③ 漢字検定の合格率アップを目指し、基礎の時間を活用して習熟を図る。また、希望者に英語検定を実施する。	○学習習慣の徹底を図るとともに家庭と連携して個に応じた学習課題がもてるようにする。
④ 家庭学習の内容を工夫する。	○課題を発見し、考え、解決する力を育成する。
⑤ 問題解決学習を徹底して行う。	○国際科の指導を全教員がT1となつて行えるようにする。
⑥ 各教科でもコミュニケーション力を身に付ける指導法について検討する。	○高学年の英語の授業をオールイングリッシュで行えるようにする。
⑦ 国際科の授業の指導方法を一人一人が身に付ける。	○発表の仕方を鍛えたり、話し合い活動を重視したり

⑧ 「特別な教科道徳」の先行実施を行うに当たり、別様を作成し他教科と横断的な学習に取り組む。	する学習を実施する。 ○夏休み港南クラブの精選を行うとともにできるだけ外部講師で行う体制に移行していく。
⑨ 夏休み港南クラブの充実（夏休みの子供の居場所を確保する）	

#### （４）健康づくりの実践力育成

体力は人間の活動の源であり、健康の維持や意欲などの精神面の充実にも大きく関わっています。いかに「徳」「知」が備わっていても、健康面で不安があると自己実現を図ることは難しくなります。そこで、健康づくりとして以下の点について取り組んでいきます。

今年度の目標	中期的目標
① 校医、学校薬剤師、養護教諭、栄養教諭と担任がチームティーチングで保健学習を実施する。	○専門家による保健学習や食育指導を実施する。
② 中休みに月２回以上げんきアップタイムを実施し、体力の向上を図る。	○げんきアップタイムの運動内容の見直しを行う。
③ ランニングクラブ、スポーツアカデミーを若手研修の一環として計画的に実施する。	○ランニングクラブを保護者や地域のスポーツクラブとして移行する。
④ 完食を目指しとともに食に関する理解を深めるために「もぐもぐチャレンジデー」を実施する。	○体力テストの全種目東京都平均越えを目指す。
⑤ 体力テストの分析を基に体育朝会の内容の重点化を図る。	
⑥ オリンピック・パラリンピック教育を実践する。	

#### （５）特別支援教育の充実

様々な要因から特別に配慮を要する児童が増加しています。各クラスに確実にそのような児童がクラスの中に数人いるような状況になってきました。元々教育の原点は「特別支援教育」のように個々に応じた教育であると考えています。また、現代社会において個に応じた指導の充実が求められています。そこで、以下の点について実施していきます。

今年度の目標	中期的目標
① 特別支援教室の拠点校としての指導体制を確立する。	○適正就学を促すとともに適正な支援を組織的に行えるようにする。
② 特別支援学級の指導体制を確立する。	○全教職員が特別に支援が必要な児童に対する指導方法を共通理解できるようにする。
③ 講師を呼んだ特別支援教育研修会を学期１回実施する。	○特別支援教室および特別支援学級の指導について全教職員の共通理解を図る。
④ 特別に支援が必要な児童に対する指導について	

ての共通理解を図る。(特別支援全体会等) ⑤ 個別支援計画書を担任と担当等が連携して作成する。	
--	--

(6) 教職員の育成と組織対応

「教育は人なり」というように子供を教え導く教師の人格や力量こそが子供に学びへの意欲を培い、一人一人の可能性を伸ばすための決定的な要因になります。また、一人の教員の力では解決できない困難な問題でも、複数の教員が機能的に対応すれば解決できる場合が多くあります。そこで、学校力及び学校の教育力向上を目指し、教職員の資質向上と連携の強化、組織的対応に取り組みます。

今年度の目標	中期的目標
① 学年会を必ず週1回以上実施し、共通理解のもと学年運営を行う。また、学年を中心にサポート体制を確立する。 ② 若手教員に対する研修会を月1回以上設定する。 ③ サポートチーム、対応委員会など組織で対応するシステムを定着させる。 ④ 企画会を中心に学校運営を行い、職員会議の効率化を図る。 ⑤ 校内イントラネットのフォルダーを設置し、情報を共有する。 ⑥ サービス研修を月1回以上実施する。 ⑦ 月1回安全衛生委員会を実施し、養護教諭、校医、カウンセラーと連携して教職員の心身の健康保持に努める。 ⑧ 長期休業日を活用し、次期学習指導要領について分担して報告会を実施する。	○学年の連携の強化を図る。 ○若手研修会を充実する。 ○中堅教員等に学校運営に参画する意識を向上させる。 ○共通理解及び伝達の効率化を図るためにイントラネットを積極的に活用する。 ○所属職員がサービス事故を常に意識できるようにする。 ○個人情報の管理を徹底する。 ○教育公務員として、常に適切な言動、服装ができるようにする。 ○次期学習指導要領の理解を深める。

(7) 家庭や地域との連携及び子供の姿がみえる学校づくり

子供たちの教育は、学校や教職員の力だけでなく、家庭や地域社会と連携して、子供を育てることが大切です。保護者や地域住民とともに地域の子供として育てるには、まず、学校がどのような教育をしているのか保護者や地域住民に理解してもらうことが必要です。そこで、学校の教育活動を積極的に公開し説明するとともに、家庭や地域との情報の共有に努めていきます。

今年度の目標	中期的目標
① 学校のホームページを充実させ毎月の行事や学級の健康状態などを掲示するとともにブログの更新も週1回以上行う。また、校外掲示板を活用し、教育活動が地域の方々に見える化を	○学校の教育活動を積極的に発信する。 ○メール等を活用した連絡体制を整備する。 ○迅速な対応と報告・連絡・相談の徹底に努める。 ○教育活動に地域の教育力を積極的に導入する。

<p>図る。</p> <p>② 緊急配信メールを活用し、学校の情報を発信する。</p> <p>③ 依頼や要望への迅速な対応と家庭への初期連絡を徹底させる。</p> <p>④ PTA 行事や地域行事の計画を作成し、教職員に配布する。</p> <p>⑤ 土曜日や日曜日の学校公開を每学期行い、保護者や地域の方々が学校の様子を参観しやすいようにする。</p> <p>⑥ いじめ・不登校防止対策の学校の取組み等を含め学校だよりに生活指導の欄を設け、毎月学校の取組を紹介する。</p> <p>⑦ 毎月、連合町会で紙面を準備し、学校の様子が地域の方々にも分かるようにする。</p>	<p>○所属職員が PTA 活動や地域の行事に積極的に参加できる環境を整備する。組織的に何かに関わるような体制をつくる。</p> <p>○地域の行事に児童が積極的に参加する体制を整備する。</p> <p>○学校だより等を活用し、さらに教育活動の見える化を図る。</p>
--	--

(8) 保幼中との連携と学習環境の整備 (安心・安全を目指して)

小1プロブレム・中1ギャップなどの問題を解決し、子供の継続的な成長を目指すためには、幼・小・中が連携するとともに一貫した教育を展開することが大切です。本校では、港南アカデミーを基盤に連携した教育活動を推進します。さらに、子供の学びを支えるための教育環境を整備します。

今年度の目標	中期的目標
<p>① 港南アカデミーを中心に研究内容や教育計画の整合性を図る。</p> <p>② 幼稚園との交流を複数学年で実施する。</p> <p>③ 保育園と学校だより等で情報の共有化を図る。</p> <p>④ 中学校見学会の内容を工夫する。</p> <p>⑤ 教育施設の共有化を連携して実施する。特に今年度の工事に対する施設利用や校庭の効率的な活用について連携して進める。</p> <p>⑥ オリンピック・パラリンピックに付随する工事車両等に対する安全指導を徹底させる。</p> <p>⑦ アレルギー対応について共通理解を図るとともに学期1回の研修会を実施する。</p>	<p>○教育計画・内容での連携を図る。</p> <p>○教員間の交流を活発化させる。</p> <p>○中学校との交換授業を実施する。</p> <p>○子供たちの交流活動を活発化させる。</p> <p>○教育施設の有効活用を図る。</p> <p>○安全指導に対する指導を計画的に実施する。</p> <p>○おいしく安全な給食を提供する。</p>

6 取組の評価

今年度の取組状況については、保護者会や地域住民に以下の方法で報告します。

- 学校だよりに掲載する。
- ホームページで公表する。

- 授業参観、学校公開日、学校説明会等で教育活動を紹介する。
- ブログの更新を頻繁に行い、教育活動の見える化を進める。
- 学校評議員会で報告する。
- 資料等を作成し、月1回の連合町会で報告する。

目標達成についての評価は、以下の方法で実施します。

- 教職員による内部評価の実施
- 保護者アンケートの実施
- 学校評議員による評価の実施

評価結果については、整理し考察を加え、年度末までに保護者や地域住民にお知らせします。